

第1498回（4月16日）

中国食糧需給の分析と予測

（中国農業科学院）劉 志 澄

1. 2000年の食糧生産の目標設定

2000年の食糧生産の目標は、総生産量が5億トン、人口1人当たり食糧保有量が400kgと設定されているが、この目標設定の基本的考え方は2点ある。第1点は、食糧生産を国民経済の基礎とする政策を堅持することである。この政策は、“民は食を以て天と為す”と言う言葉に象徴されるような、食糧に対する中国人の特殊な思い入れと、これまでの政策経験、及び中国の食糧需要の巨大さ（世界の生産量の4分の1）に由来するものであるが、この政策から帰結されることは、食糧供給の自力厚生と、食糧貿易は品種の調整と部分的な過不足の調整に限定されるということである。第2点は、1人当たり食糧保有量400kgの確保を至上命題としていることである。それは、経済発展の推進力となる国民の食生活の向上を担保するためには、400kgの確保が必須条件とされているからである。

2. 目標達成の問題点

目標を達成するうえでの主要な問題点は3点である。第1点は、人口増である。人口は現在11億人を超えており、今後当分の間は年間1500万人以上の増加が見込まれている。第2点は、耕地面積の減少である。人口1人当たりの耕地面積は、建国当初は18アールであったが、現在は8.7アールにまで減少してしまっている。今後も、人口増と経済の発展にともなって、耕地面積の減少圧力は増大を続けよう。第3点は、単収が既にある程度水準（89年でヘクタール当たり3,645kg）に達してしまっており、今後の飛躍的増大はかなりの困難を伴うことが予想されていることである。

3. 目標達成のために講ずべき政策措置

1の目標を達成するためには、2で述べた中国が現在抱えている問題点を考慮すれば、

今後講ずべき政策措置は、大要次の通りと考える。

(1) 科学技術によって単収を向上させること

科学技術を積極的に生産現場に導入し、集約的経営の推進等によって、単収の向上を最大限に追求することが必要である。

(2) 食糧の作付面積を確保すること

農地の転用を規制するとともに、食糧と食糧以外の作物との作付地域を調整し、全農作物の作付面積を1億4333万ヘクタール以上確保することを前提として、食糧の作付面積を1億1200万ヘクタール程度確保することが必要である。

(3) 生産財等の物的投入を増大させること

国家のほか、地方政府、農民の資金投入等によって、農業基盤整備事業を推進するとともに、化学肥料、農薬、農業機械等の生産資材を食糧生産の採算が取れる価格で、その必要量を供給することが必要である。

(4) 食糧の政府管理制度を改革すること

政府の食糧買上価格を引き上げて、食糧生産の比較優位性を確保する。他方、消費者への配給量（1人当たり配給量は55年以降不変）を適宜削減するほか、その価格も引き上げ、食糧の浪費を抑制することが必要である。

(5) 人口を抑制するとともに、食糧の効率的使用を図ること

人口増加率を食糧の増加率以下に抑えるほか、食糧の効率的使用を推進する。例えば、畜種構造を調整して、豚肉の生産比重（88年は肉類総生産量の81%）を減少させ、家禽、卵、牛羊肉等の生産を向上させることによって、飼料効率を高め、飼料用食糧の効率的使用を図ることが必要である。

（文責・白石和良）